

濱邊にて

東條 環

うす紅の小貝ひろひつ
なつかしさ胸にあふれて
沁々と光りにかざす。

父の貝、母の貝、
はたまた杳つ祖先の
もだしては君の貝など
供へますこれのせつなさ
限りなく涙あふるゝ。

いざ共に抱きつ行かばや
うす紅のあはれ小貝よ
ほとほとと ほとほとと
砂地に沁むる
あつき泪の跡を残しつ……
あてもなくさまよひて行く。

山桜 昭和九年十二月号

(小曲)